

「今日もあそこに行ってみよう！」

社会的居場所の役割多様に

介護予防から生きがいの創出まで

介護保険制度施行から17年。この間社会は大きく変化し介護保険法も何度も改正されてきましたが、2015年にまた大きく改正されました。

これまで予防給付として全国一律に介護保険から給付されていた要支援者への訪問介護や通所介護は、2015年から「一般介護予防事業」と「介護予防・生活支援サービス」として各市町村が行うことになりました。

市町村への移行については、各行政の財政状況などに地域間の格差が懸念されますが、もう介護保険だけではこの高齢社会は乗り切れません。健康年齢が伸び、市民ニーズも多様化しています。高齢になっても元気ならゆったり働き続け社会に参加していける仕事場。趣味や特技を仲間と共有する場所。生活の不自由を助けてくれる気軽な家事援助のサービスが受けられるシステムなど。高齢社会を豊かに生き抜くために求められているニーズは様々です。

この市民ニーズに応えるために、地域の福祉は自分たちで作っていくといった考え方が必要になっています。

社会的居場所の必要性を感じたワーカーズ・コレクティブは、各地で独自の居場所事業を展開しています。

ミシンカフェを中心に、いくつになっても関われる場所
ワーカーズ・コレクティブ紬



志木市本町 5-7-15
090-8841-4658
Facebook
<https://www.facebook.com/tsu mugicafe>

着物着付教室



事業内容
ミシンカフェ、ランチ・喫茶、各種教室開催、レンタルボックスなど
営業時間
10:30~16:30
定休日
日・月・祝日

気持ちがきらきらするイベントを企画します
ワーカーズ・コレクティブきらきら館



加須市北小浜 256-1
070-2796-6448
MAIL
kirakirakan2016@gmail.com

事業内容
各種教室開催、各種イベント開催、生活サポートなど



写真上：親子で遊ぼう
(未就学児の体操教室)
下：イベント
きらきら寄席

「今日もあそこに行ってみよう！」

社会的居場所の役割多様に

社会的居場所の必要性を感じるワーカーズ・コレクティブは、各地で独自の居場所事業を展開しています。

公共施設で作り上げる居場所事業

NPO法人ワーカーズ・コレクティブ青いそら

三郷市早稲田 5-4-1 三郷市文化会館内
048-957-9600



介護予防サロン
「手仕事しましょう」

事業内容

コミュニティレストラン、生活サポート、福祉有償運送、介護予防サロン、介護者の集い（ケアラー支援）

レストラン営業時間

10：30～17：30

定休日 第2第4月曜

コミュニティカフェ幸茶店でたくさんの出会いを

NPO法人ワーカーズコレクティブこうさてん

鴻巣市吹上富士見 3-1-7
048-598-7614



事業内容

コミュニティカフェ、各種交流機会、寺子屋、児童お預かり、手作り品販売、生活サポート、福祉有償運送など

コミュニティカフェ営業時間

10：00～17：00

定休日 日・月・第二土曜



写真上：わいわい夕食会
下：歌と絵本の会

いろんな人と人との関りが広がる場所

NPO法人ワーカーズコレクティブてとて

北本市中央 4-67 1F 080-3914-4146



歌声広場

事業内容 生活サポート、居場所託児、生協居場所事業受託など

営業時間 10：00～17：00（利用料金 100円）

定休日 土・日・祝日

HP <http://tetotekitamoto.web.fc2.com/>

いつになっても住み続けられる街をめざして

NPO法人ワーカーズ・コレクティブこの指とまれ！

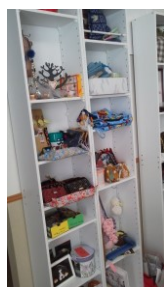
さいたま市中央区大戸 2-3-12 プラージュ南与野 1F
048-753-9315

事業内容 生活サポート、ランチカフェ、ミシンカフェ、レンタルボックス、レンタルスペースなど

営業時間（お問い合わせください）

ランチカフェ
木曜 12：00～14：00

ミシンカフェ
第2第3月曜 10：30～12：30
13：30～15：30



レンタルボックスでは、会員や地域の方の手作り品を展示販売しています

「居場所」の機能として求められるもの

生涯現役で働ける場

政治の場では 75 歳を高齢者と位置付けることが議論されています。高齢者の定義が何であれ、人はいくつになっても自分らしくいられる場所や持てる力を発揮することを求めます。また年金だけでは生活がままならない人も増えています。参加するメンバーの状況に合わせ、たすけあいながら働く場が必要です。

用事がなくてもいける場所

一人暮らしの高齢者は確実に増えていきます。孤立化が進み一日誰とも会話しない…そんな人々が気軽に立ち寄れる居場所も必要です。子供も高齢者も集うことで異世代交流も生まれます。

助け合いの精神で生活を支援するしくみ

困ったときはお互い様。「庭の手入れはもう難しい」「通院は一人では不安」。誰でもいつかはやってくる生活の不自由を支援するしくみも整えている場所が求められます。

「地域の食卓」のような食堂

家庭的な食事が楽しめ、時には訪れた人がボランティアで厨房に立つこともあり、たくさんの人と食事ができる場所。栄養指導や健康への食相談にも対応する場所になると良いでしょう。

時代が必要としている 働く人の協同組合 ワーカーズ・コレクティブ

第4回埼玉ワーカーズフォーラム2016 志波早苗さん講演会報告

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会が2年に一度開催するワーカーズフォーラム。今回は生活に困難を抱える人などからの相談事業事務局を10年程続けてこられた志波早苗さんに、協同組合の意義について講演していただきました。

若者が協同を学んで社会的自立へ向かう

生活サポート生協・東京*では、ワーカーズ・コレクティブなどに若者のインターンシップの協力をお願いしてきました。若者の生きる力が弱まり、協同の力を学ぶことが必要だと感じたからです。生き生きとした地域共同体が子供を育てるように、ワーカーズでの体験は若者の人生を豊かにします。

生活サポート生協・東京は多重債務者が社会的問題になった2004年に、生活クラブ生協東京・パルシステム連合会・司法書士が連携して多重債務者の相談を受ける組織として設立されました。現在生活全般の相談を受け付け、相談者はパルシステムの組合員が70%、一般が30%です。相談内容は、生活困窮・心の病など、困難な社会状況のセンサーとなっています。

大きな協同組合と小さな協同組合の役割

協同組合は「普通の人たちがお金を出し合い、力を出し合って、自分達がやりたいことをかなえられる仕組み」であり、そこに共感し、つながる人と人との集合体です。そこではマイナスの要素があっても仲間同士でマイナスをシェアし、プラスに変える力を持っています。

今大きな協同組合がたくわえた資源を提供し、組合員一人ひとりが主体的に関わらねば運営できない小さな協同組合との連携が求められています。あなたまかせの人が多くなか、自分達で物事を考え、行動し、地域に必要な仕事を自ら行っていくワーカーズ・コレクティブを時代が必要としています。

社会が不平等だからこそ、人と人をつなげ、エンパワメント（力を付けていく）し、人の成長を促す教育的機能を内在する小さな協同組合がたくさんできることは、世の中を変える大きな力になっていきます。

*生活サポート生協・東京は2017年1月から「一般社団法人くらしサポート・ウィズ」として活動

志波早苗さん

2009年から生活サポート生協・東京の事務局として相談事業に携わる。協同組合の、要求型ではなく自分たちで問題を解決しようとする「しくみ」を評価。



これからの連合会

ワーカーズ・コレクティブの仕事は、人を幸せにする仕事。事業を継続させることで、社会的弱者の包摂・地域の再生に欠かせないものとなる。

それぞれのワーカーズ・コレクティブには設立の原点に、地域や社会のためのモノやサービスを提供するという基本があります。私たちが事業を継続し社会的責任を果たすことで、共助社会を充実させていくことができるのです。連合会は会員ワーカーズ・コレクティブの力となり、社会的広がりにも努め、未来に向かって運動を進めていかねばなりません。

世界の上位8人の総資産合計が36億人の資産合計に匹敵するとの報道に、格差と言うこともはばかれるほどに膨れ上がり歪んだ資本主義を見る思いです。また民主主義社会とはいえ、一方的な情報と威勢のいい言葉に簡単に納得してしまう人々が世界中に充満しています。社会の暗い部分は「見ない、見せない、見えない」状況が作り出されています。

この様な不安な時代だからこそ、自ら考え行動し、分かち合い助け合うワーカーズ・コレクティブという道具を使い、勇気をもって進みたいと思います。

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会会長
井瀧佐智子

マイナスを分かち合い プラスに変える

志波早苗さんの講演で印象的だった「マイナスをシェアしプラスに変える」という言葉。生活協同組合が豚肉の1頭買いをするために、班を構成する組合員がロット単位で予約購入するシステムを考案したことを例にされていました。生産者から直接購入するために1頭分の肉をバランスよく引き受けなければならない課題を解決するために、欲しい部位の肉ばかりでなくみんなでもとめて買う。マイナスを仲間とシェアすることで市場では手に入らない健康な豚の肉を手に入れることができたのです。そのようなマイナスのシェアはワーカーズ・コレクティブでは普通に行われています。小さな子供を育てる母親は働く時間を長く取りにくいのですが、そんな事情を他の仲間がみんなでもフォローし、子供の体調で急に休む事態でも事情をくんで代り合います。それによって子育て中の母親が社会参加でき、また組織にとっても若い仲間を得ることができます。子育て中の母親に限らず、一般での働く場がない高齢者や、働きにくい障がいを持つ方とともに働く場を作る工夫をするワーカーズ・コレクティブも多いのです。一人ひとりが経営に責任を持つために会議が多



根岸実行委員長



志波早苗さん

いのもマイナスですが、そのためにメンバーが成長するというプラスも見逃せません。

一般ではマイナス要素はお金をかけたり効率を上げることで解決し、競争の原理で切り捨てることも普通です。ワーカーズ・コレクティブは分かち合いの原理で、人と人のつながりの力で解決し、その力が組織やメンバーだけでなく社会へのプラスとなるのです。

本気で関わることの意味

志波さんが用意された資料「生協に関わる仕合せ」（生活協同組合研究 2016.11）からの文章を、私たちに引き寄せて使わせていただきます。「働く人の協同組合であるワーカーズ・コレクティブでは一人ひとりが物事に真剣に向き合う中で、対立や齟齬を体験することもあります。それを乗り越えた経験は大きな意味を持ちます。合意形成する過程で自分の意志や判断を問われ、考え、言葉にすることを繰り返し、そのことで知らず知らずのうちにメンバーは成長しているのです」私たちは本気でワーカーズ・コレクティブに関わる中で力をつけ、社会のマイナスをプラスに変えていける存在になるのだと思いました。

フォーラム実行委員長 根岸真澄

志波早苗さん講演内容は3ページに掲載

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会 情報誌 WAVE62
 〒336-0031 さいたま市南区鹿手袋 1-5-3 ひゅうまんポスト2F
 電話/FAX 048-844-0221
 E-mail saitama.waakore@gmail.com
<http://saitama-workers.com/>

編集制作 ワーカーズ・コレクティブ ピアズねっと
 1部 ¥100

お知らせ

第13回 ワーカーズ・コレクティブ **全国会議 in 北海道**

「うばいあう経済から助けあう経済へ」
 ~ワーカーズ・コレクティブは社会的経済の担い手~

2017年
10月21日(土) 分科会 13:15~15:45
 北海道立道民活動センター
 懇親会 17:30~
 北大北部食堂

22日(日) 全体会、自主企画 9:30~15:30
 共済ホール

23日(月) ツアー 10:00~
 詳細後日